

# 日本平山頂シンボル施設の視察会（報告）

1. 日 時：平成 30 年 10 月 4 日（木） 13:00 ~ 15:30
2. 場 所：日本平山頂シンボル施設（静岡市清水区草薙 600 番地内）
3. 参加者：会員等 35 名
4. 概 要：静岡県、静岡市が共同整備する文化観光施設「日本平山頂シンボル施設（愛称：日本平夢テラス）」の施設視察会を本会主催で開催し、県主管の「展望施設」をメインに視察した。



## ●施設概要

工事場所	静岡市清水区草薙 600 番地内
工 期	平成 29 年 10 月 24 日～平成 30 年 9 月 14 日
構 造	S 造 地上 3 階建 最高高さ 12.74m
規 模	建築面積：472.38 m <sup>2</sup> 延床面積：964.7 m <sup>2</sup> 敷地面積：13,628.30 m <sup>2</sup>
主要用途	展望施設
使用木材	ヒノキ 73.26 m <sup>3</sup> スギ 12.80 m <sup>3</sup> 合板 8.51 m <sup>3</sup> （いずれも県産材）

## ●主な特徴

- ・外部は、正八角形の平面を基調とし、木架構組みと 360 度のガラス張りによる開放性が特徴。
- ・内部は、「複雑な木架構・吹き抜けの中心から八方へ広がる木製ルーバー・正角材によるささら階段等」が見られ、多様な形状の木材を見せる空間となっている。

## ●ディテール

- ・主構造を鉄骨とし、柱をなくし吹き抜けをつくることで開放的な空間となっている。
- ・木架構は、建物中心からトラスを八方に延ばすことで、構造の補助機能およびデザイン性を生んでいる。
- ・内部の中央階段は、支柱がなく、角材を段上に積みあげたデザイン（ささら階段）となっており、角材内部に鉄骨を通すことで、構造を担保している。
- ・内装（ルーバー・カウンター等）、板張りの外壁は不燃処理材(加圧注入)を使用している。
- ・テラス床材は、「セラガンバツ」が使われている。

## ●現場力の賜物

- ・昨年末に竣工した「富士山世界遺産センター」（設計：坂茂 建築設計）の「逆さ富士の木格子」8,000 ピースの加工・施工と同様、本施設（設計：隈研吾 建築都市設計事務所）でもモックアップ（実物大の模型）された木架構、中央の階段部など、基本構造（鉄骨）+木造の取り合い部の微調整等、随所に「現場の調整力」が発揮されている。
- ・「展望施設」の中央部階段は、ヒノキ角材を金物緊結して施工された。屋外暴露される「展望回廊」の樹脂系デッキ材の採用はもとより、不特定多数が土足で利用する公共施設ゆえ、階段は強度面の配慮からヒノキ角材を欠き込み、踏み面にバーチ材（カバノキ科シラカンバ属の広葉樹）の挽き板が接着施工されている。

日本平山頂シンボル施設の視察会（写真集）平成 30 年 10 月 4 日（木）



外観



外階段・強化ガラス(12 mm厚)



外壁（スギ板張り）



エントランス(1階)



受付カウンター（7寸角を使用）



ルーバー(1階)



ルーバー(2階)



木架構(2階から)



木架構(3階から)



カフェ・カウンター(2階)



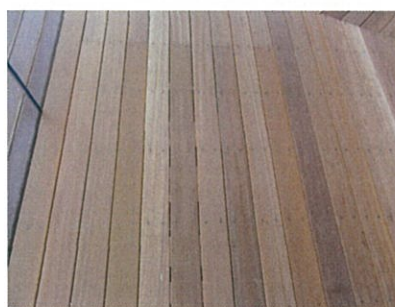
中央部階段（側面）



中央部階段（正面）



1階から天井を見上げる



外部テラス(セランガンバツ)



「展望回廊」デッキ(樹脂含浸木材)